

自治体の課題、現状

・学校部活動以外で活動している生徒が増加傾向にある。また、全市的に行った「新しい部活動の在り方に関するアンケート調査」では、希望した種目を担当していない教員が全体の約3割を程度であった。また、教育委員会が配置している「部活動指導員」の数は、年々増加しており、今後も増加していくことが想定される状況である。

・本市の学校部活動に設置している種目は、運動部19種目、文化部32種目あるが、これらの種目が必ずしも子どものニーズに対応できていないため、土日の地域スポーツ・文化クラブの環境を構築していくことにより、子どものニーズに応じて取り組める地域クラブを創出する必要がある。

地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	58校	全生徒数	32,173人
域内の部活動数	851部	実施した地域クラブ数	39クラブ
全体の指導者数	73人	全体の運営スタッフ数	73人
主な運営団体	民間事業者		
主な種目	野球、サッカー、バスケットボール、バドミントン、陸上、ソフトテニス、卓球、バレーボール、ソフトボール、ハンドボール		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：8.3人/クラブ 2年：8.3人/クラブ 1年：8.1人/クラブ
参加会費	なし	主な活動場所	各中学校

地域移行関連の取組、成果

【統括団体と指導者での取組】

- ・労務管理には「ジョブカン」という専用アプリを利用
- ・連絡体制は、Slackを利用
- ・業務委託契約書を電子契約化

【指導者の質の保証】

- ・従来から、さいたま市が手掛けている“コーチング指導”を継続的に実施

【指導者の量の確保】

さいたま市内の関係団体への協力体制の構築  
統括団体が市スポーツ協会等と連携し、指導者を確保

運営体制図

